

## 大達 和彦

文章題は、子どもたちが最も苦手にするジャンルである。その原因は、教科書に書いてある線分図である。線分図を見ても、式がわり算になるのか、かけ算になるのかがわからないからだ。割合の公式を導く『くもわ』の図を描いても、子どもたちは、問題文のどれが「くらべる量」なのか「もとにする量」なのか区別がつかない。子どもたちは、「割合」や「速さ」などの単元ごとにいくつもの「公式」をバラバラに暗記を強いられるが、その公式をうまく使えず、文章題がわからなくなっていく。それを克服する方法が『面積図』である。

「全部の量」を求めるときはかけ算、「1あたりの量」と「分量」を求めるときはわり算を使えばいいことがすぐにわかる。面積図を使うと2年生のかけ算から6年生の割合までの文章題を、すらすら解くことができるようになる。教師も自信をもって指導できる。文章題の中から「1あたりの量」「分量」「全部の量」を色鉛筆で線をひくと、子どもにはわかりやすく、教師には、子どものつまずきをチェックできるメリットがある。

文章題によつては「1Lの重さ」「定員の2倍」という表現がされていることがある。そのときは「1Lあたりの重さ」「定員をもとにする」と2倍」と読みかえればいい。面積図は大達先生のCD教材の中に入っている。パワーポイントなので、クリックするだけ明日からでもすぐに授業で使える。

## アイディア一つで

## こんなに伸びる、

## ●報告 大達和彦

黒板掲示物、カルタ、フラッシュカード、パワーポイント教材の紹介、それらを使うときの工夫や配慮についても教えていただきました。

繰り返し使う黒板掲示物は、スチレンボードとネオジウム磁石を使うといいそうです。ネットでもとめ買いがおすすめです。ラミネートの場合も、黒板上をよく移動させるものは、一五〇ミクロンのフィルムを使う、家にラミネーターがなくてもアイロンで低温設定で当て布をすればOKだそうです。繰り返し・繰り返し下がりの計算で、数の分解と10の合成で使うさくらんぼうとピーナツちゃん。小数のわり算ではシワツチくんや波乗りくんが小数点の移動を印

象付けます。これらの親しみやすいキャラクターがあるのとないのでは、計算の方法の入りやすさが大違いです。

また、筆算上の操作でどういうことをやっているのか理解させるにはアニメーションが役に立ちます。

視覚だけでなく、都道府県カルタの歌、九九の歌、単位換算の呪文のように、歌ったり唱えたりして覚えることも楽しいです。

九九のフラッシュカードには、数式だけでなく九九の読みを書く、フラッシュカードは、速い子だけが答えるのではなく、考える時間をとり、「さんはいっ」で一斉に答えさせる、プリントも易しいものから順に繰り返しするなど、つまづいている子への配慮や、どの子も伸ばすという視点が大切にされています。